



「雪の日に」

おさしま二葉こども園  
年長 かわじりしほう

恵那市教育研究所  
<http://www.ena-gif.ed.jp/>

恵那市長島町正家一丁目1番地1 恵那市役所西庁舎4階  
TEL (0573) 26-2111 FAX (0573) 26-2155

## 習慣 手にすれば力が付いてくる

恵那市副教育長 工藤 博也



朝のストレッチで私の一日が始まります。腰痛予防のストレッチは今や朝のルーティンとなり、ごく自然に実践できています。とはいえ、簡単に続くようになったわけではありません。

### ■習慣づくりの一般論

日常生活を構成する行動には多様なルーティンがあり、人の脳はその都度判断する労力を省くため自動化して習慣を形成していきます。無意識の習慣が一日の作業量のうち多くを占めるため、よい習慣づくりができれば、ねらった成果も手軽に手にすることが可能となるわけです。

私見ですが、習慣に至るまでには段階があると考えます。まず、「言われたから」など主体性の低い段階から始まり（強制）、次に願いや目標をもって取り組む段階（意思）を経て、最後に無意識のうちにできる段階（習慣）となるわけです。ただし、（意思）から（習慣）へのハードルはかなり高いと言えます。

### ■ストレッチが続くようになった考察

朝のストレッチが習慣化するまでの記憶をたどりました。きっかけは、「腰痛にはストレッチをすべし。」という医師からの提案でした。案の定、朝の忙しさからやれる日もあればやれない日もありました（強制）。しかし、強制の段階もある程度必要です。例えば生徒にノルマとして出す宿題もある程度成果につながることから意味がないとは言えません。ある時整体に行く機会が減ったことに気がきました。「ストレッチはやはり効果があるので、忙しくてもやろう。」いわゆる明確な目標をもてた段階です（意思）。つらい腰痛を回復するというより強く切実な目標をもったことで、やれない日は格段に減りました。学校でも日ごろ生徒たちに「目標をもて」と指導していることは正しいと言えます。手ごわいのは（意思）から（習慣）のハードルの高さです。難関をクリアするためのアイテムは何であったか。一つは安直ですが「見

返り」です。整体に行かずに済み、浮いたお金を「おいしいものを食べる基金」に回したことがそれです。そして、決め手は手応えの累積です。朝のすがすがしさと日中の腰痛への恐怖感から解放された充足感を得ました。やらない日があると何となく落ち着かなくなり、知らず知らずのうちにストレッチを毎日欠かさずやれるようになりました（習慣）。

専門書によると、すがすがしさは、脳内にエンドルフィンという幸福感をもたらすホルモンが分泌されるためとあります。最後のハードルを越えられたのは、科学的な根拠に裏打ちされたものだったのです。最初は嫌々宿題に取り組んでいたものの、自学が習慣となり、やる気に満ちた姿に変わっていった生徒の姿を思い出します。

### ■授業力をつけるある習慣

さてここからは、ストレッチの成果から授業力も「習慣」によって高められるのではという話です。私の勤務2校目の校長先生から「ほめ上手は授業もうまい。ほめる力を鍛えよ。」と言われ、授業の最後により学びを見つけてほめる取組を始めました（強制）。しかし、取り組んでみると、ほめられる側の実態が見えていないと上滑りし、効果が薄いことを実感できるようになりました。そこで、「今日はこんな授業にしたい」というイメージをもとに、終末でのほめる言葉を事前に準備するようにしました（意思）。そして内容やタイミングが実態とマッチするようになると、周りからも「いいね」がもらえるようになるなど、手ごたえが累積していきました。ほめる習慣は、私の教員としての財産となり、指導と評価の一致した授業をつくる力となっていきました。

### ■まとめ

ものごとを成し遂げるには、目標や計画も大切ですが、実践をいかに日常レベルに落とし込めるかがキポイントです。実践がごく自然に積み重なるようになり、「しなないと落ち着かない」感覚を得られるほどの習慣となれば、成果はすぐそこにあります。



# 令和5年度 恵那市指定研究発表 報告

中野方小学校

## 主体的に追究する子をめざして

～数学的な「見方・考え方」を働かせて、学びを深める授業づくり～

### 1 研究の構想

本校では、「願いや課題をもち、仲間と関わり合いながら主体的に学ぶ子」の願う姿を実現するために、令和3年度より研究を進めてきました。

そこで、全校児童が学習できる算数科を研究の柱に置き、研究主題を「主体的に追究する子をめざして」、副主題を「数学的な見方・考え方を働かせ、学びを深める授業づくり」と設定し、次の研究内容のもと実践を行いました。

#### 【研究内容1】

「見方・考え方」を働かせて学びを深める指導計画のあり方

- ①児童の実態の把握と付けたい力の明確化
- ②指導内容を明確にするための工夫

#### 【研究内容2】

「見方・考え方」を働かせて学びを深める一単位時間のあり方

- ①一人一人が解決のための見通しをもてる導入
- ②筋道立てて説明する力を付けるための手立て
- ③仲間と関わり合いながら追究を深める学習活動
- ④自己の成長を実感できる活動

### 2 研究実践

#### レディネステストによる実態把握

研究内容1に関わり、単元指導計画を作成する前に「レディネステスト」を行い、児童の実態を把握するとともに、身に付けさせたい力を明確にしました。

#### なかのんワード・アイテム

研究内容1に関わり、教師が児童の実態をもとに、一単位時間ごとの「なかのんワード」（児童の実態を踏まえた、単元の中で大切にしたい考え方）や「アイテム」（根拠を基に筋道立てて考えるために活用する数、式、図、表、グラフ等の数学的表現のこと）を予想し、単元指導計画に明記しておくことで、指導内容を明確にして、単元のつながりを意識しながら指導できるようにしました。見い出す場面、活用する場面の位置付けも指導計画に記しました。

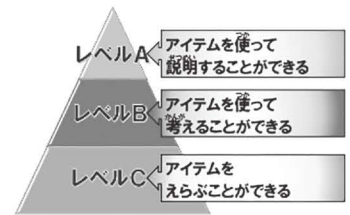
研究内容2に関わり、一単位時間の中で、児童がこの2つを併用することで、既習の学びと関連付け解決の見通しをもてるようになること、根拠や考えの筋道を可視化して筋道立てて説明できるようになることを目指しました。

研究内容1に関わり、この指標をもとに、児童の実態を掴み、具体的な支援を予想することが、個別最適な学びへとつながると考えました。また、研究内容2に関わり、児童が指標をもとに、自分の立ち位置を理解し、目指す姿を明確にしながら取り組むことで、自己の成長を実感するための手立ての一つになると考えました。

#### なかのんタイム

「なかのんタイム」とは、本校の協働学習のことです。必要な時に、必要な相手と交流することで、児童が他者の考えと関わらせながら、自身の考えを深めたり、広げたりすることをねらいとして行いました。研究内容2に関わり、協働学習を通して追究を深め、質の高い交流になることを目指し、一単位時間の中にこの時間を位置付けるようにしました。

図1 なかのんピラミッド



### 3 研究の成果と課題

表1 児童の意識の変容

設 問	「当てはまる」割合の変容
①課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいるか。	30%→48%
②自分と違う意見について考えるのは、楽しいと思うか。	33%→45%
③学級の仲間と話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができているか。	50%→59%

○今年度の学習アンケートでは、令和3年度と比べ、表1のような変容が見られ、本校の願う姿に向け、着実に前進することができました。

◆標研式CDT（学力検査）の検査結果からみたとき、どの学年においても、学力の二極化が進んでいるように感じました。

◆どの児童にも基礎的・基本的な学力を確実に定着させるための具体的な取組を考え実践できるようにしていきたいと考えています。

来年度も、今年度の取組を効果的に活用しながら、教員で丸となり、よりよい手立てを研究していきます。

東野小学校

自己を見つめ、よりよく生きようとする子の育成  
～対話を通して深める道徳科の時間を核として～

【研究内容1】

本時の内容を自分事として捉えるための導入の工夫

導入は、生活導入を中心に取り組んできました。特に学習する価値を自分事として捉えさせるために、事前アンケート結果の提示や、ねらいに関わる日常の姿を想起させる資料の提示を工夫しました。工夫のねらいは自己理解と価値への方向付けです。

【研究内容2】

考え議論し、本時のねらいにせまるための工夫

①視覚化～ICT・ペーパーサート

・具体物のベストミックス～

「教材の中に入り込んでいくための援助」「内容理解の援助」「価値追究の際の援助」を目的に行いました。

②ネームプレートの活用

「考え議論する道徳」を支えるネームプレートの効果的な活用について、有効な活用は次の二点です。主体的な学びでは、ネームプレートを置くことで、自分の考え方や感じ方を明らかにすることができます。仲間のネームプレートの位置と比べたり、多様な考え方や感じ方を交流したりすることができます。このように、自己理解、他者理解で有効です。

③学習形態及び隊形の工夫

ペア、トリオ、班での交流が主体でしたが、全体交流では交流したことを踏まえて発言することを大切にしました。

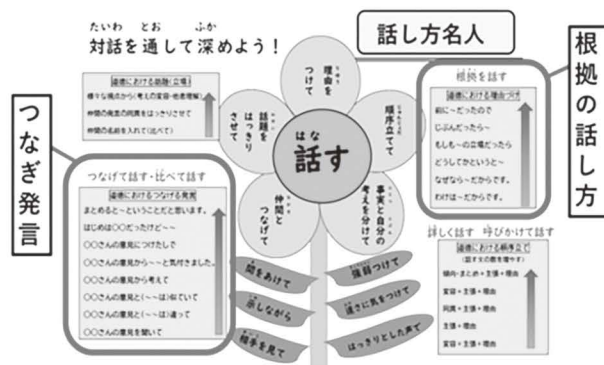
【研究内容3】

より深く自己を見つめるための後段の工夫

展開前段で道徳的価値について学びを深めた後、再度自己と関連させた導入へと立ち返ります。授業前にもっていた自分の価値観や傾向性を、授業で学んだ価値からふり返ることで、展開後段の「自己をふり返る場面」では、より深い自己理解へとつながります。昨年度までに振り返りの書き方の指導もしてきました。

学習の基盤づくり ～話し方・聴き方指導～

話し方指導は、毎年見直しを図っていますが、昨年度からは新たに考え議論するために必要な話し方の話型を整理しました。発達の段階に応じて「つなげて話すときの話し方」や「根拠をつけて話すときの話し方」など、発言の仕方のレベルを設け、各学年における到達目標を設定し、継続した指導しました。聴き方指導も同様に大切にしました。



研究を支える活動

学校の教育活動全体における道徳的実践の場を①教科②総合的な学習③学活④その他と捉え、別業と年間指導計画を作成し、発問や児童の反応、授業後の担任の反省を加筆して次の担任に渡すことで、実のある計画になるよう心がけました。担任は年間指導計画をもとに道徳的実践につながるよう配慮し、意図的に道徳の授業を仕組み児童の実践意欲を高めるようにしました。

さらに、本年度、「自分や友達の行動の値打ちの見方が十分に育っていない」という児童の実態をふまえ、学校長の方針のもと、自分や仲間の言動のよさを知る、共通の窓口として、協力、責任感、思いやり等8つのアイテムを使って指導を試みました。研究を支える活動や、日常のよさ見つけ、行事で繰り返し使い、児童に行動の値打ちを教えるとともに、研究の日常化を図った。8つのアイテムについてレーダーチャートを用いて全児童に自己評価させるようにしました。

研究の成果と課題

- 授業改善により「道徳科の好き」な児童が増加しました。保護者アンケート「お子さんは善悪の判断をし、よりよく生きようとしているか」の項目において、6月75%、10月82%と評価が上がりました。
- 道徳科での学びを、他の教育活動と意図的・計画的につなげた指導を実現できました。
- 価値項目を元にした8つのアイテムを日常的に使い、行動の値打ちを認め励ましたこと、チャートで自己評価をさせたことで、児童自らが成長を実感し、自信を高めることができました。
- ◆対話活動や自己表出を苦手とする児童の思いを取り込む工夫、ワンパターンに陥らず問題解決的な学習など多様な展開を工夫するなど、より一層の授業改善を行っていきたいです。
- ◆学校教育活動全体における、自己を見つめる活動のさらなる工夫と充実を図っていきたいです。

明智中学校

仲間と語り合い確かな力を身につける生徒の育成を目指して

【研究内容1】

生徒が協働的に学習に取り組むための指導の工夫

- ①個が活躍できる追究活動
- ②小集団活動の活性化

「仲間と語り合う」ことができるように、自分の考えを確実にもち、自分の考えを語り合うことを通して、考えを深め、教科の本質である「確かな力」を身に付けていくことを目指しました。

個人追究に入る前には、「追究の視点」を確認することができる資料を掲示物やロイロノートの資料箱に準備し、生徒が必要に応じて活用しながら個人追究を行うことができました。特別支援学級では、生徒の特性に応じた資料を準備する等、生徒が補助資料を自己選択できる環境を設定したことで、生徒自身のテンポに合った、主体的に追究活動を生み出すことができました。



生徒主体の小集団活動を実現できるようにするために、教科の特性や生徒の実態に応じて人数や交流方法を設定し、生活班とは異なる「教科学習チーム」を編制した上で、小集団での追究活動を行うようにしました。

社会科では、2回の小集団交流を設定しました。1回目のメンバーで調べたことを2回目のメンバーで交流することで、その後の全体での討論に生かすことができました。また、数学科では、チーム内で個人の考えを話す順番を工夫することで、チーム全員が話をすることができました。

生徒の実態に応じた学習チーム編制をすることで、授業のねらいから逸れることなく課題を追究できるようになりました。また、他者と交流する必然性のある状況を創り出すことで、協働的な学びを生み出すことにもつながりました。

【研究内容2】

生徒が学びの状況を自覚するための指導の工夫

- ①学びの過程がわかるワークシートの活用
- ②自己伸長につながる自己評価

学習の足跡を見返し、本時の学習に生かすために、「本時新たに発見したこと」「交流から学んだこと」などの具体的な評価項目を示すなどして、ワークシートに書かせる振り返りの内容を工夫しました。一例を挙げれば、実技教科の保健体育科では、球技のゲームの様子を教師がコート上方から撮影し、その動画を生徒が視聴する時間を授業の中に設け、自己評価に結び付くようにしています。教科の特性に応じて、ワークシートの媒体を使い分けることで、生徒も教師も本時までの学びを確実に把握することができるようになりました。

振り返りを書かせる際には、前述のような項目だけでなく、「自己評価の理由」についても書かせるようにしました。毎時間の振り返りを1枚のシートにまとめることで、ロイロノート上でも一目で学習の積み上げをすることができるようになりました。ワークシートに書いた振り返りを教師が把握し、授業終末に意図的指名することで、本時の学びと前時までの学習をつなげて、学びを深める全体会をすることもできるようになりました。



研究の成果と課題

- 目的を明確にした小集団学習により、生徒が自分の考えを広げたり、深めたりすることができました。
- 意図をもった振り返りにより生徒が学習内容の定着や自己の伸びを実感できました。
- ◆全体交流で考えさせたいことを明確にし、様々な意見を交流する中で考えを深められるような発問を考えていきたいです。

# 特集

# 道徳教育パワーアップ研究協議会

長島小学校

## 自己の生き方についての考えを深める子の育成 ～学び合いを通して考えを深める道徳授業を軸として～

### 【研究内容1】

#### 年間指導計画における目指す児童の姿の明確化

年間指導計画に、実践しながら赤で加筆修正を加え、児童の発達段階や実態に即して見直しを行いました。また、毎月、道徳教育推進教師を中心に、月の内容項目の確認と見直しを行うことで、学校行事、各教科や領域との関連の意識化につなげました。

### 【研究内容2】

#### 生き方について学び合い、考えを深める道徳授業の在り方

### 1 研究内容2-(1) 導入の工夫



2年生「おでこのあせ」と3年生「マリーゴールド」では、掃除や給食当番活動の様子を写真で提示して生活導入を行いました。写真をもとに自分事として捉えることができ、主題の意識化、価値への方向付けにつながりました。

### 2 研究内容2-(2) 展開の工夫

#### 議論（交流）する



ペア、グループ交流  
6年生「ぼくの名前呼んで」

多面的・多角的に考える

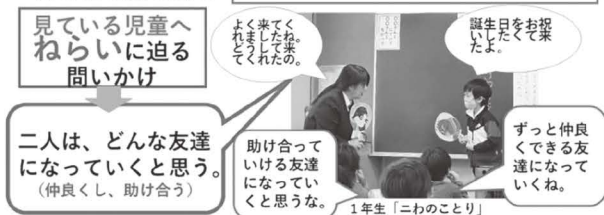


役割演技  
2年生「おでこのあせ」

自分の考えをもつ時間を十分にとり、その後、仲間と交流する際には、教材の内容や目的に応じて、役割演技、ペアやグループ交流など、様々な表現活動を取り入れました。道徳的な課題を自分事として捉え、交流を通して多面的・多角的に考えを発展させていくことができました。

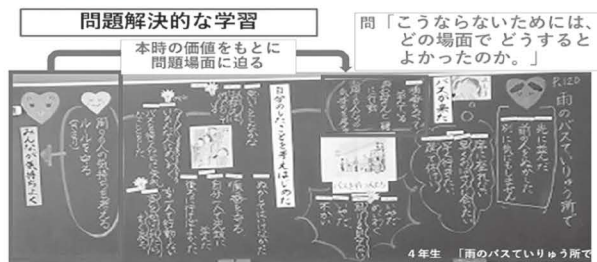
#### 役割演技

演じているのを見て、話し合う



役割演技では、考え方や感じ方を表出させること

を大切にしました。そして、その役割演技を見ている児童の考え方や感じ方がどのように深まっていったのかを表出させるために、ねらいに迫る問いかけをしました。



問題解決的な展開は、本時の価値をもとに問題場面に迫り「こうならないためには、どの場面でどうするとよかったのか」を問うことで、「どう行動するとよいか」まで考え、議論することができました。また、中心発問において、価値に迫る多様な考えが出た後に、深めの発問として「あなたが『なるほど』と思うのはどれか」と問うことで、価値の高まりを引き出すとともに、仲間の思いや考えを聞いて今の自分の思いや考えがどう変わったかに気付くことにもつながりました。

#### 動画メッセージ



オリンピック出場を目指して頑張っていたが、怪我をして走れなくなってしまった。辛くて「もうやめてしまおう。」という気持ちになったこともあるが、「夢をかなえたい。」という強い気持ちをもってコツコツ努力し続けた。その結果オリンピックに出ることができた。くじけずに努力すれば夢はかなうので、みんなも頑張ってほしい。

総合的な学習の時間  
あおちゃんインタビュー  
「くじけそうになったことはありますか。」  
道徳 内容項目  
A 希望と勇氣、努力と強い意志  
5年生「世界最強の車いす  
テニスプレーヤー 国枝慎吾」

### 3 研究内容2-(3) 終末の工夫

生活場面から、よかった姿を紹介したり、友達への感謝の気持ちを紹介したりしました。また、「一家庭一ボランティア」の取組の保護者のコメントをさまざまな内容項目と関連させて紹介したり、自然体験活動や行事などの体験活動から学んだことを動画で伝え、地域の方から、生き方・考え方を学んだりしました。道徳的価値のもつ意味や大切さについて深く考えることで、実践への意欲を高めることにつながりました。

#### 研究の成果と課題

- 生活導入により児童が自分事として捉えることができ、主題の意識化、価値への方向付けにつながり、様々な表現活動により、多面的・多角的に考えを発展させていくことができました。
- 発問を工夫することで、価値の高まりを引き出すとともに、自分の変容を自覚することができました。



# 「つながる活動」で、豊かな心を育む

城ヶ丘こども園

「あの風おもしろい!」「どうやって作るの?」くるくる回る風で遊ぶ4歳児、それを真似てみたくなる2・3歳児。地域の方の話に目をキラキラさせて聴く園児の姿があります。

このように、本園は、0～5歳児143名が在園すること、大井町という地域の特色から様々な人と関わる活動を柔軟に展開しやすいことが強みです。こうした強みを生かし、子どもを主語にした保育を展開できるように、今年度から特色ある園活動を「つながる活動」としました。活動のよさを紹介します。



## 1 地域の願いが子どもの願いとつながる

5歳児は、大井町ひしや資料館内のお茶室で和菓子屋「恵那寿や」さんに、年10回、お茶会を開いていただいています。作法を通して「物、人を大切に作る心」を育みます。

回数を重ね、自信をつけた5歳児は、4歳児に「恵那寿や」さんから教えていただいたことを伝えたいと考えました。5歳児は、4歳児にどうしたら分かってもらえるか、学級で相談しました。当日は、これまで学んだことを姿で示し、何とか伝えることができました。そして、4歳児に「上手だったよ!」と声をかけていました。4歳児はお茶会へのやる気が高まり、保育室に戻ってからもう一度見せていました。

地域の方から学んだことが、子どもの願いとして、子どもから子どもへとつながりました。

## 2 異年齢活動で、子どもの学びがつながる

夏には3～5歳児が合同で水遊びをしました。スライダーコーナーでは、4・5歳児が氷を筒に入れると、勢いよく滑り落ちていくのを見た3歳児は、いっぺんに虜になりました。

3歳児が大きな氷を入れたことから、子どもたちは小さい氷にすれば詰まらないこと、大きな氷は詰まってしまうことに気がきました。4・5歳児が氷を取り出そうと筒を

傾けると氷が勢いよく滑り出すのを見て、3歳児は傾きを変えると滑り方が変化して面白くなり、何度も繰り返し試しました。3歳児が何度も筒に入れる氷を4・5歳児が受け皿で集めるうちに、傾きや氷の大きさで、氷が落ちる位置が変化することを見つけました。



このように、異年齢活動では子ども同士が自然に学び、発見や楽しさへとつなげます。子ども同士の様々な発見が生まれるたびに、保育教諭が適切に関わりながら遊びが発展し、学びが広がっていきました。

## 3 園小連携で、学びがつながる

5歳児は、「ねらったところへ強く投げたい!」という思いから、小学校の体育教諭に投げ方のコツを習いました。

5歳児のボール投げへの意欲はさらに高まり、遊び方やルールを変え繰り返す中で、運動会種目にしたいたいと考えました。名付けて「ヒーロー」。ボールを的に当てるか、穴に入れるか、投げる位置を自分で選択し、自分が得意とする投げ方を披露しました。



こうして投げ方に自信をつけた5歳児は、小学校1年生とのドッジボール対決に臨みました。始めは逃げに徹していましたが、次第に投げ方のコツを生かし、自分ならできるところにねらいを定め、挑む姿が増えていきました。

恵那市の教育の中核に、人とのつながりを大切に作る豊かな心を育むとあります。

異年齢・異校種間での学びのつながり、保護者、地域、行政とのつながりなど、様々なつながりが複雑に絡み合いながら保育は営まれます。本園だからできるつながりを生かし、子どもの願いや学びをつなぐ保育活動を充実させていきたいと思っています。

## 温 ONKOUCHISHIN 故知新★

# 必死になって勉強に取り組む

心に残る遊び・授業・先輩・職員

明智中学校 校長 安藤 一博



40年以上の月日を経ているというのに、高校2年の時に受けた物理の授業が、今でも強く印象に残っています。いつも少し頭を低くして入口の鴨居をくぐるように教室に入っ

てつくような静寂の中でおこなわれていました。

ある月曜日の物理の授業でのことです。前日の部活動遠征で疲れたので、私の隣席のK君が居眠りをしてしまいました。S先生は、それを目ざとく見つけられ、「おい安藤、隣のKを起こしてやれ。」と低い声で私におっしゃいました。K君の身体を揺り動かして起こすと、S先生はK君を指名して立たせ、授業内容に関しての質問をされました。質問の内容は全く覚えていませんが、居眠りすることなく授業を受けていた私にも答えられないものだったことだけは、はっきりと覚えています。K君は背中を少し丸め、「分かりません…」と小さな声でつぶやくように言いました。それを聞いてS先生は、「分からんヤツは…」と口にされ、生徒の注目を待つように間を置いて、真

顔のまま穏やかな声で「死ね。」と言葉を継がれたのです。

私は衝撃を受けました。今の世であれば、教師の問題発言ということで即刻ネットニュースにでもなるかという内容です。しかしながら、愚かな私が受けた衝撃は、「理解できなければ生きてはいけぬのか…」という別物でした。「居眠りしていると死ななければならなくなってしまう…」とも思いました。浅はかな受け止め方をした高校生の私は、その後も浅はかな行動に出ます。必死の思いで、物理の勉強をするようになったのです。「必死」という言葉は、辞書では「死ぬ覚悟で全力を尽くすこと」「死にものぐるい」などとされていますが、まさに言葉通りの気構えをもって、ほんとうに必死になって勉強に取り組みました。なにしろ、理解できなければ、生きていけないわけですから…。

おかげで少しは物理が理解できるようになり、一応は物理を専門とする理科教師として、教壇に立つこともできました。S先生のあの一言がなければ、今の私はなかったように思います。教師として間違っても口にしてはならない言葉が何かということについて、若くして自分の肝に銘じることができたことも含め、今となっては感謝しかありません。